

男女共同参画社会をつくる ～男女共同参画に関するQ&A～

Q72 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターでの、支援状況等調査の概要を教えてください。

A72 1 **ワンストップ支援センターとは**

「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」（以下、「センター」という）は、性犯罪・性暴力の被害に遭われた方に対し、被害直後から総合的な支援を可能な限り1か所で提供することで、被害者の心身の負担を軽減し、その健康の回復を図ることを目的としたものであり、各都道府県に置かれています。

2 **調査の概要**

センターへの相談件数は伸び続けており、令和元年度は、約4万件に到達しました。性犯罪・性暴力の被害者支援の重要性が高まる中、今後の施策の検討に役立つため、内閣府では、センターにおける支援実態等に関する調査研究を実施しました。

本調査は、内閣府として初めての調査であり、令和元年6月1日から8月31日までに全国のセンターにおいて対応した全ての相談を対象としています。

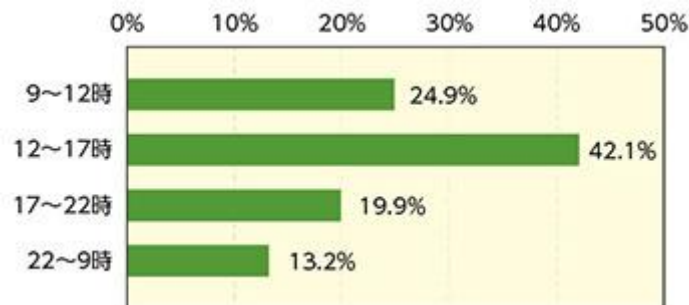
○相談件数

電話相談は延べ7,606件、実人員2,755人、面談は延べ1,600件、実人員818人でした。また、メール相談を実施しており、かつ調査期間中にメールでの相談があったセンターは12か所ありました。

○相談受付時間帯

電話相談を受け付けた時間帯は、「12～17時」(42.1%)が最も多かったです。また、「22時～9時」という夜間の時間帯も13.2%、24時間対応のセンター(20か所)に限ると17.9%であり、夜間の相談対応に対するニーズも一定数あることがうかがえます(図表1)。また、17時から翌朝9時までの相談件数は、全相談件数の3分の1になります。なお、24時間対応のセンターに限れば、相談件数の38.4%と約4割を占めます。

図表1 電話相談受付時間帯 (n=7,493)

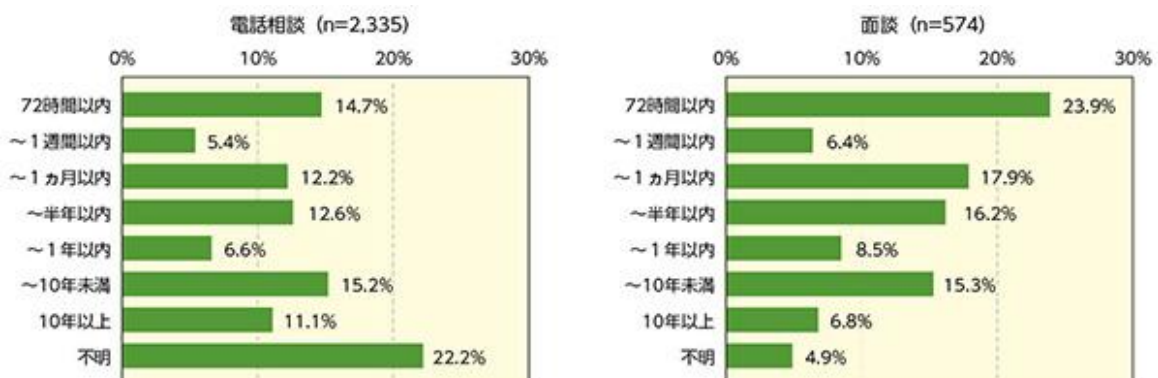


○電話相談・面談までの時間

電話相談では、過去の被害(1年以上前)についての相談が26.3%を占めていました。そのうち、「概ね10年以上」も11.1%であり、長期にわたって性暴力の被害に苦しんでいる被害者も多いことがわかります(図表2)。

また、面談で最も多かったのは「72時間以内」(23.9%)であり、緊急避妊ピルの処方など、急性期における医療支援に対する被害者のニーズがうかがわれます。

図表2 電話相談・面談までの時間



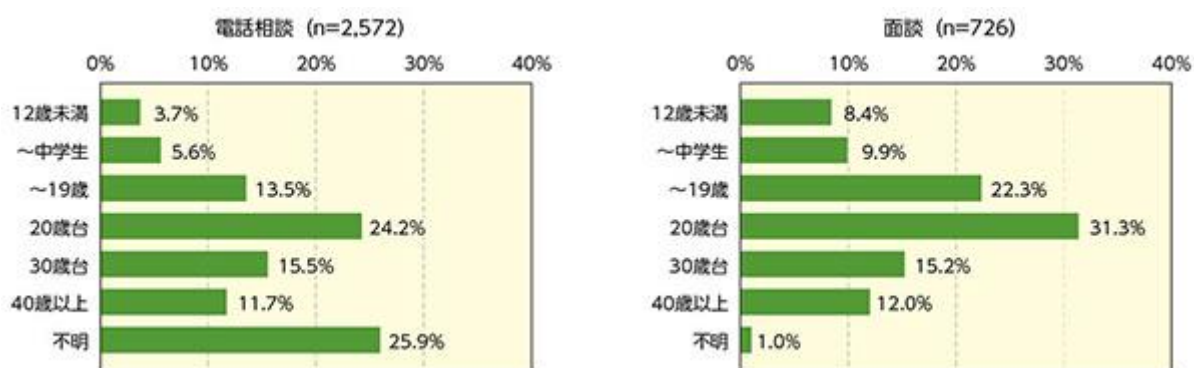
○被害者の性別—男性被害者も約1割

センターに寄せられた電話相談のうち、女性被害者は87.7%、男性被害者は10.4%でした。通常、電話相談から面談に移行しますが、面談のうち、男性被害者が2.2%であったことから、男性はより面談につながりにくいことがうかがえます。

○被害者の年齢—10代以下が約4割

面談では、「20歳台」が31.3%、次いで「中学卒業以上19歳以下」の22.3%、「30歳台」の15.2%となっています。19歳以下の被害者が40.6%と、約4割を10代以下の被害者が占めており、若年層の比率が高いことが確認されました。さらに、中学生以下に限っても、約2割に上っています（図表3）。

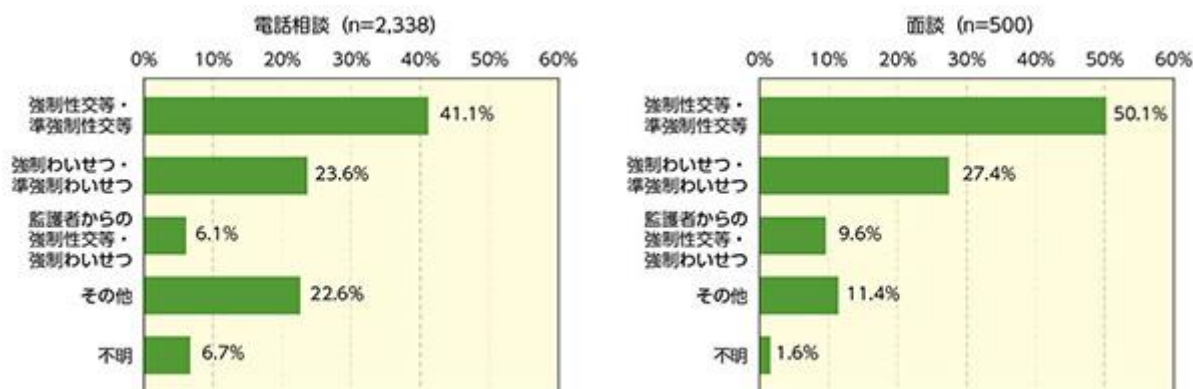
図表3 被害者の年齢



○被害の内容

電話相談、面談ともに「強姦性交等・準強姦性交等」が最も多くなっており、面談では半数以上を占めました（図表4）。また、面談では、「監護者からの強姦性交等・強制わいせつ」が約1割（9.6%）に上りました。


図表4 被害の類型



- 加害者との関係
- 協力病院の数
- 支援体制の課題

公式ホームページ内閣府男女共同参画局
12月号に掲載します。

性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター



**全国共通
短縮番号**

8 8 9 1

はやくワンストップ

都道府県の性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター
全国共通短縮番号が10月1日からはじまります。
発信場所から最寄りのワンストップ支援センターにつながります。
8 8 9 1 「はやくワンストップ」と覚えてください。

- ◇ 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターとは、性犯罪・性暴力に関する相談窓口で、医療、法律などの総合的な支援につながります。
- ◇ 全国共通短縮番号は、一部のIP電話、PHS等からはつながりません。

